



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

琉球大学出版会の取組について

ScholAgora第7回セミナー「大学図書館からの学術情報発信」

琉球大学附属図書館

大谷周平

[mail:otani@cs.u-ryukyu.ac.jp](mailto:otani@cs.u-ryukyu.ac.jp)

 0000-0003-0175-8641

琉球大学について

- ・ 7学部・8研究科
- ・ 学生・院生数 約8000人
- ・ 教員数 約800人
- ・ 2025年4月には医学部キャンパス移転完了
- ・ 1950年5月22日開学（本日、開学75周年！）

琉球大学附属図書館について

- ・ 附属図書館と医学部分館
- ・ 蔵書数 約100万冊

年間延べ入館者 約23万人

年間貸出冊数 約8万冊

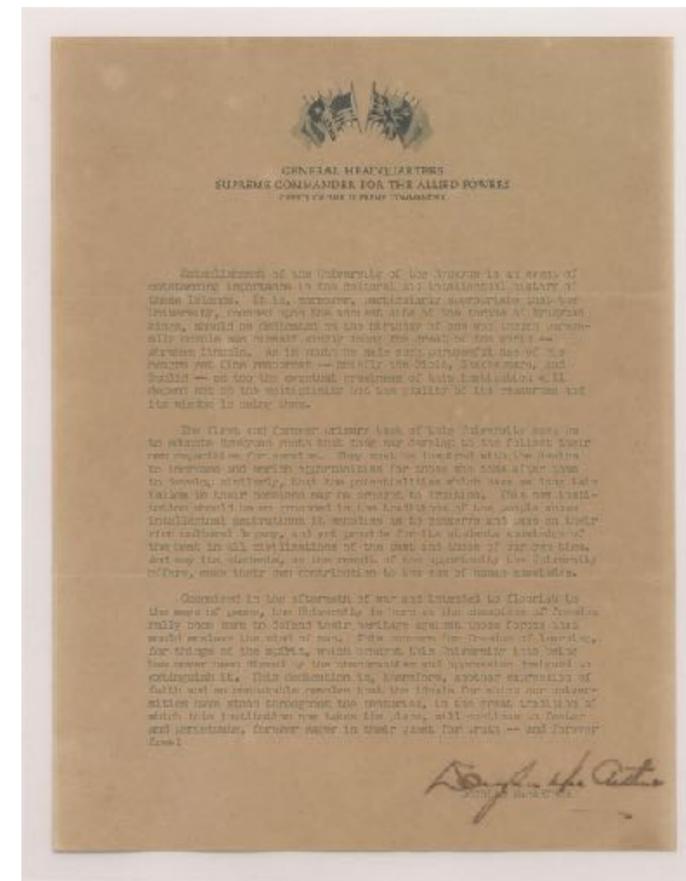


琉球大学について



琉大図書館Podcast別館～5月22日は琉大開学記念日 琉大開学の歴史～

<https://youtu.be/-LhILqpWCUw?feature=shared>



ダグラス・マッカーサー開学記念祝辞

<https://doi.org/10.24564/ot00201>

自己紹介

- 琉球大学附属図書館情報支援係
 - 図書館システムの運用
 - 外国雑誌の契約
 - オープンアクセス・オープンサイエンスの推進
 - 大学出版会の事務

構成

- ・ 琉球大学出版会設置の経緯・取組について
 - ・ 国立大学法人における大学出版会の状況
 - ・ 沖縄における出版
- ・ 琉球大学出版会の現状について

琉球大学出版会に関する経緯

- ・ 2018 西田前学長の学長選公約に「琉球大学出版会」の設置
- ・ 2021 大学出版会設置検討ワーキング設置（総合企画戦略部所掌）
- ・ 2022 大学出版会準備ワーキング設置（附属図書館所掌）
- ・ 2023年7月5日 琉球大学出版会設置
- ・ 2024年10月 出版会に関する原稿募集開始

出版会設置検討ワーキングでの議論

- 大学出版会の設置意義は認めつつも、以下の理由から大学としてどこまで経費負担出来るかを含めて、判断が必要としている
 - 独立採算がとれる事業とすることは困難なこと
 - 出版編集に関する人材の欠如

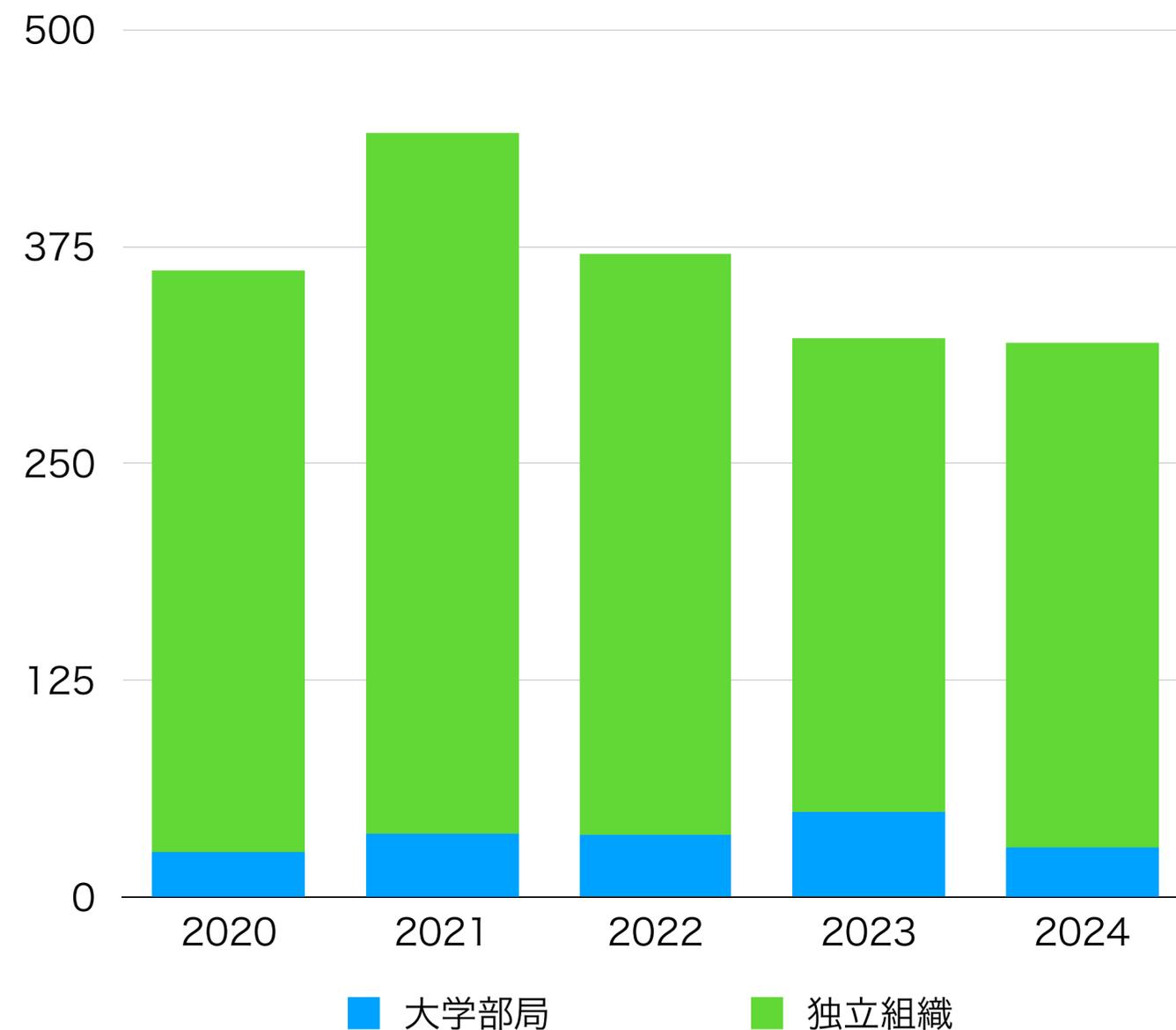
国立大学法人における大学出版会の状況

- 国立大学法人に関連した大学出版会は26
- 設置形態はさまざま
 - 15出版会は大学組織の一部として設置
 - 図書館が事務を担っているケースも多いが、そうでない事例もある。
 - 社団法人、財団法人、株式会社などさまざまな形態がありうる

国立大学法人における大学出版会の状況

- 2025年5月にCiNii Booksで出版者名から抽出
- 目視で重複除去、国立大学法人のものに限定
- 電子書籍のみの出版で、CiNii Booksに登録されていないものは対象外

国立大学法人の出版会の出版状況



沖縄における出版

- 沖縄は出版の盛んな地域
 - 九州沖縄では、福岡に次ぐ出版社数
 - 全国的な傾向に逆行して増加傾向も
- 沖縄出版協会（2019年設立）
 - <https://okipa.jp>

都道府県別出版社数の推移

	2010	2018
福岡	30	26
佐賀	2	3
長崎	5	5
熊本	7	5
大分	2	0
宮崎	3	3
鹿児島	6	6
沖縄	16	18
全国合計	3,902	3,382

出版ニュース社「出版年鑑」2010年版、2018年版より
抜粋

沖縄の書籍小売店

- 書籍小売店については、出版社のような傾向は見られない。
- 書籍・雑誌の年間販売額でも、1人あたりの年間購入費は少ない方に分類される。
(出版年鑑2018のデータから)

都道府県別書店・小売店の推移

	2014	2024	10年増減率
福岡	512	374	73.00%
佐賀	80	62	77.50%
長崎	137	84	61.30%
熊本	170	117	68.80%
大分	147	107	72.80%
宮崎	115	76	66.10%
鹿児島	174	103	59.20%
沖縄	116	84	72.40%

一般社団法人 日本出版インフラセンター調べ
共有書店マスタ 店舗数推移データより一部抜粋

沖縄における出版

- 商業出版以外にも市町村誌、字誌などの出版も盛ん
 - 県内市町村字史（誌）等共同所蔵目録（沖縄県立図書館） <https://www.library.pref.okinawa.jp/about-okinawa/cat3/post-3.html>
 - 2020年以降で94点の新規刊行

出版会準備ワーキングでの議論

- 設置検討ワーキングの議論を受けて、低コストで出版会を運用するためには、という観点で議論を行った。
 - 大学部局として設置
 - 電子書籍を中心に。冊子体を希望する場合にはプリントオンデマンドで対応、冊子体の市場流通はしない。（少数の教科書販売は視野に）
 - 著者は完全原稿を準備、さらに出版に要する費用も負担

現実的に可能な範囲で、ミニマム形で設置

琉球大学出版会の目的・事業

- 目的：出版会は、琉球大学（以下「本学」という。）の研究・教育・学修に寄与することに加え、本学の学術成果を広く社会に還元することを目的とする。
- 事業：
 - (1) 研究及び教育の成果又は資源としての学術書、教科書等の刊行事業
 - (2) 研究成果の普及のための教養書の刊行事業

琉球大学出版会組織

琉球大学出版会

会長（学長）

学長指名理事※

附属図書館長

学長指名構成員

琉球大学出版会運営委員会

委員長（学長指名理事※）

附属図書館長

文系・理系・医学系分野委員

委員長指名委員

附属図書館情報管理課

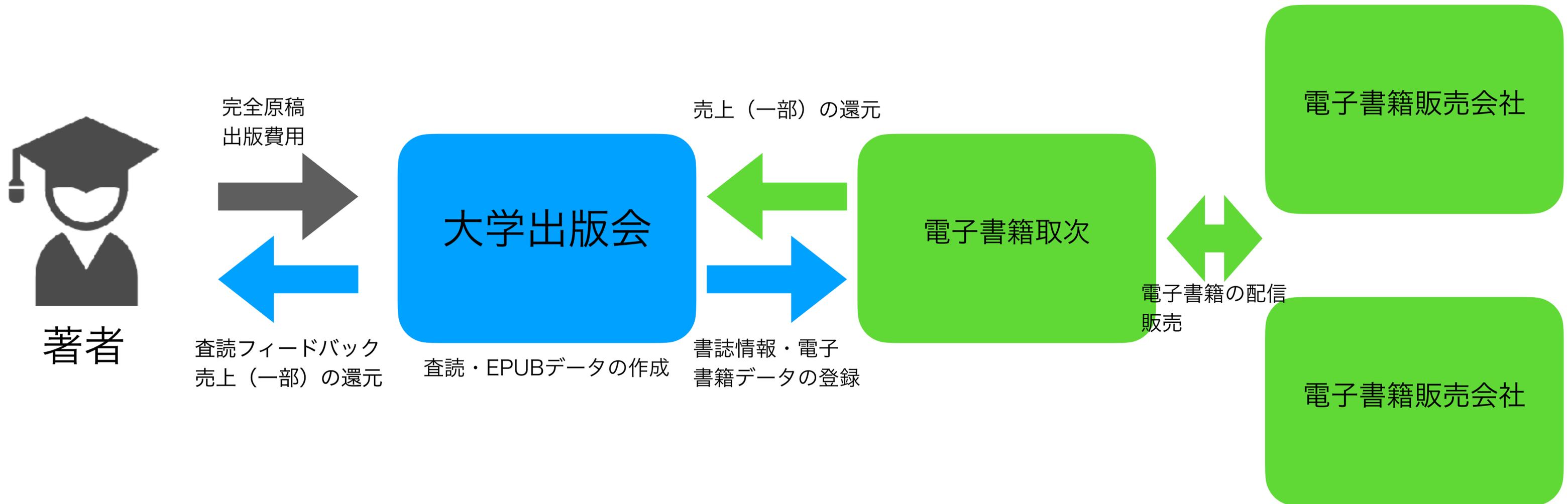
琉球大学出版会設置後の準備

- 出版事業を実施するための学内部署との調整、規程整備
 - 著作権の取扱、査読の基準
 - 売上をどのように研究者へ還元するか
- ISBNの取得
- 電子取次事業者との契約

出版会設置のコスト

- 電子書籍取次の初期設定費用 〇〇万円
- ISBN取得費用 5万円弱（100点分）
 - 書籍JANコードは取得せず
- 査読費用 外部依頼の場合は、分量に応じて支出（上限あり）
- 電子書籍製作費用 ～10万円程度？

琉球大学出版会のモデル



琉球大学出版会が研究者にできる価値は

- 商業的な出版の対象とならないようなニッチなテーマ、教科書などへの対応
- 査読による一定の質保証、内容の担保
- 原稿完成後の電子書籍製作、流通関係の手続きの負担軽減、売上が生じた場合の還元
 - 電子書籍としての販売が必須でなければ、機関リポジトリでの公開も選択肢

琉球大学出版会の現状の課題

- 安定的な原稿の確保
- 適切な査読者の選定・確保
 - 出版会運営委員会が査読することが前提だが、現実的か。
- 学術情報分野でのメタデータ流通
 - 商業書店ベースでの流通は担保できたが、それは学術情報流通の分野でどのように扱われるのか。（CiNiiなどに適切に流通させるにはどうすればいいか）
- （当面の事業対象でないが）企画出版、校正、校閲などの技能向上

出版会に図書館が関わる意義

- 限定的ではあるが、書籍製作や流通に関する視点の変化
 - 電子教科書として適切な流通とは
 - 電子書籍ならでは付加価値やアクセシビリティ
- 従来とは異なる立場で研究者とのコミュニケーションをとる機会
- デジタルアーカイブや機関リポジトリの連携

九州地区国立大学教育系・文系研究論文集

- ・ 2008年創刊
- ・ 国立大学協会九州地区支部の連携事業として実施
- ・ 教育系・文系の査読付きオープンアクセス論文集
- ・ コンテンツは各大学のリポジトリで公開。
 - ・ 論文集のページから各論文へのリンク



九州地区国立大学教育系・文系研究論文集
<https://nuk.repo.nii.ac.jp/>

おわりに

- 大学出版会はトップダウンからはじまった施策だが、学内での期待があるのであれば、それに少しでも近づけるよう取り組みたい。
- 機関独自のコンテンツについて、コンテンツの生成、公開、メタデータ流通、長期保存の支援、
 - 大学独自教科書、博士論文、紀要、貴重書、地域資料

参考文献

- 森一郎ほか. (2024). 琉球大学附属図書館が担う出版会及び5つの事業. 大学図書館研究, 126. <https://doi.org/10.20722/jcul.2174>
- 前田勇樹, 川畑宗太. (2024). 中央省庁もすなるYouTubeといふものを, 琉球大学附属図書館もしてみむとてするなり. 大学図書館研究, 125. <https://doi.org/10.20722/jcul.2161>